

ゆめポケット

第27号
2023.3.10

社会福祉法人 米沢仏教興道会
興道北部保育園



米沢市塩井町塩野1476-1
TEL (0238) 21-5070 FAX (0238) 21-5128
HP <http://hokubu.yb-koudou.jp>
E-mail koudou-hokubu@yb-koudou.jp



「最高の笑顔が見られる日々...」

興道北部保育園園長 我妻 江利子

マスク生活も、もう三年。「そろそろ限界だ」と思ったのは二年が経った頃。一体いつまでこの生活が続くのだろうと思っただけですが、あれよあれよともう三年。もうすぐマスク着用が個人の判断にゆだねられるようになります。その時「バンザイ!!」と手放しで喜べるのだろうか、マスクを外せる日を心待ちにしていたのに、不安と慣れでマスクが外せそうにありません。

二十数年前、0歳児の保育参加にマスクとエプロン、三角巾をつけて保護者の方に近くでお子さんの様子を見ていただいたことがありました。子どもはお母さんとわからず、最後に抱っこされると嫌がり泣き出してしまったことを思い出しました。

生まれてから目が見えるようになったとき、もうマスクをつけた顔を人の顔と認識してきた子どもたちは、マスクを外したときどんな反応をするのでしょうか。

笑顔は高度に進化した人間だけが持っている素敵な力です。口を開けて笑うことにより親しみを表し、笑顔を他者とのコミュニケーションの手段として用います。その口元を隠してきたこの三年間は、目と語りかける言葉で親しみや喜びなどを表現してきました。マスクを外したとき、見慣れない顔に泣いたりはしないだろうかという不安もあります。笑顔でぎゅーっと出来たらと願っています。たくさん笑顔と笑い声があふれる日々が待ち遠しく感じます。

育メン紹介

「私の育児」

高橋 和樹さん
(千織ちゃんの父)



育児を語れる程立派な者ではないですが、せっかくの機会なのでお話し

させていただきます。

私は千織に幸せを感じられる子になって欲しいと思っています。家庭の事情で寂しい思いをさせてしまいましたが、その中でも楽しいことはたくさんありました。無いモノを数えたらキリがないので今楽しい事、笑顔でいられることに集中してくれたいと思います。

その為には親である私自身が楽しみ幸せを感じながら千織と関わっていく事が重要だと思っています。自分が幸せを感じられてないなら子供も分かるはずがないと思っています。

育児とは言いますが自分が千織に対してどんな姿を見せてあげられるか、どういう気持ちで関わっていく事が大事な事だと思っています。

私は口ベタで立派な父親ではないかもしれませんが、これからも幸せな姿を見せていっぱい愛していきたいなと思います。

「楽しく・明るく・元気に」

齋藤 拓也さん
(花帆ちゃんの父)



私の思う育メンは、子どもと一緒に楽しく、明るく、元気に遊ぶ事だと思って育児をしています。

私は、小学生の野球少年2人と花帆(年長)の3人の子どもがいます。長男が0才の頃から約9年間、この北部保育園にお世話になりました。初めの頃は、思うようにいかず悩むこともありましたが、先生方からアドバイスを頂きながら、日々成長する子どもと一緒に親として成長してこれたと感じています。

仕事で疲れていても、子ども達の笑顔やゲラゲラ笑っている姿が見たくて、春は公園で自転車遊び、夏は海でBBQ、秋は田んぼで焼き芋、冬は庭に雪像を作り、オールシーズン色々な遊びを考えています。遊びの中で、色々なことに触れ、体験して、学べているのではないかなと思っています。

『いつまで一緒に遊んでくれるのか...』と思うと寂しくなりますが、これからも子どもと遊ぶ時間を大切に、楽しく、明るく、元気に過ごしていきたいです。

皆さん、このコロナ禍で体が鈍っていませんか？春の雪解けと共に、お子さんと一緒になって外遊びを楽しみましょう！

「成長の日々」

齋藤 大介さん
(康誓くんの父)



あんなに小さかった息子があっという間に

卒園を迎えます。入園した時からお友達より一回り小さくて心配しましたが、すすくと成長している姿を見ることができる今日に幸せを感じます。

幼児組のこの3年はコロナ禍で様々な行事が中止になり、また制限があったりと、もっといろんな経験ができたのかもしれませんが、それでも行事を迎えるごとに違った表情をみせてくれました。年長組最後運動会では飛び回って喜んでる姿はとても印象的でした。一生懸命に何かをやり遂げようとする様子を見て嬉しく思います。園での生活を思う存分楽しめる環境整備、行事運営に注力して下さった園長先生はじめ先生方、関係者の皆さんに心より感謝致します。

大爆笑している顔。泣いている顔。。これからもたくさんいろんな顔を楽しみにしています。

姉弟合わせて7年間お世話になり本当にありがとうございました。

「日々精進」

主事
対間 一仁



日頃より皆様におかれましては、当園の保育運営に御理解と御協力を頂き誠にありがとうございます。

ございます。

令和4年度より、主事として勤務しております。私は平成29年度にも1年間当園に勤務していた為、5年ぶりに当園に異動してきました。当園の素晴らしい環境で勤務出来る事を大変嬉しく思っております。

新型コロナウイルス感染症の流行により、ここ数年で世間は大きく変化しました。子供達にとって乳幼児期は、人生の基盤となる大切な時期です。私自身も丁寧かつ活発な保育活動に努め、子供達の人権や主体性を大いに尊重したいと思っております。また、子供達の今後の未来を預かる者として一生懸命動めて参ります。

後編集

今年度は夏に大きな水害があり、メディアでは園児のバス置き去り事件や虐待など、胸を締め付けられるようなニュースを耳にしました。保育園でも災害対策や虐待防止研修などをすぐに行い、子どもたちの安全を守り安心して過ごせる環境と関わりを全職員で再確認しました。

春の訪れを心待ちにし、子どもたちの笑顔と笑い声が園舎いっぱいにあふれる日々を大切に過ごしていきたいと思っております。
(鈴木 記)

0歳児 はじめての「これなあに？」

0歳児は、行きたいところに自由に行き来する中で、見るもの・聞くもの・触れるものが、はじめての出会い「これなあに？」の連続です。見たもの、触ったもの、五感で感じたことを、保育者が一緒に「はっば」「きれいなのはだね」「つめたいね」など言葉にして伝えることで、そのものを知り、言葉にもつながります。



はっば ちくちくしてる～



初めての氷！
つるつるしてる～つめたい！！



「カサカサ」音がするね



遊びは学び 『これなあに？』『どうして？』『もしかして?!』 『調べてみよう!』『こうなんだ!』『わかるっておもしろい!』 ～あそびのなかのワクワク!たのしい!～

子どもたちはあそんでいると、はじめてのことに出会ったり、知らないものを見つけたり、不思議だなと感じる経験をします。発見することは、楽しくて嬉しいことです。これなんだろう、どうしてだろうと感じたことを保育者に受け入れてもらい、友だちと一緒にあそびながらいろいろ学んでいきます。実体験をとおしてたくさん考えたり調べることは、知らないものを知る楽しさにつながっていきます。



あそびのテンポがいいー!!
どうしてあんなに重くて台にたてたー!!



お友だちが上から砂を
パラパラパラ～!
あ!でてきた、でてきた!!



加湿機の風に
浮かんだ風船をみて。
「うわあ!!うかんてる!!」
「ふしぎー!!」



よいしょ!!もち上げた
どんぐりが転がった!!



これは何だ?!ツンツン...



「な～なにかがいるぞ...」



「この感触はなんだ～?!」



「このくも、みたことあるよ」



「今日はどんな
くも、かなあ」
「外に行ってみよう」

3・4・5歳児 「調べてみよう」「試してみよう」

子どもたちはあそびの中で「なんで?」「どうなるの?」と、さまざまなことを不思議に感じたり、疑問を抱いたりします。自ら感じ気づいたことを、保育者や友だちと一緒に調べたり試行錯誤して考えることで「わかった!」「納得!」「おもしろい!」につながります。その感覚はとても心地よく気持ちがいいものです。身のまわりのことに対して「もっと知りたい!」と感じるようになります。



これとおなじかな



「えの具が流れた...
あ、色が混ざった」



紙コップで
作った風車。
歩いたら
回り出した!



調べてみよう
フムフム... なるほど...



「みてみて!かえる2匹つれたよ」
「色がちがう...」



数字の大きいものが
1番重いんだね。



計りではかってみよう!



側溝にカエル発見!!
「何で釣る?」...
「木の枝で釣ろう!!」



いっぱい探れた
も。
いっ
たい
どれ
が
一
番
大
き
い
の?
?